

地域資源検討部会報告書

平成 20 年 3 月

八尾市産業振興会議
地域資源検討部会

～ は じ め に ～

中小企業が地域の特色ある地域資源を活用して新事業を創出することを促進するため「中小企業地域資源活用促進法」が平成19年6月に施行され、各地で取組みが活発化している。大阪府においても、19年度に「おおさか地域創造ファンド」が組成され、府内の地域資源を活用した新しい事業に対して助成を行うなど、地域が主体となった活性化事業に対して支援を行っている。

このような状況のもと、18年度の産業振興会議報告書においても、既存施策の見直しとともに「地域固有の資源として未だに活用されていないさまざまな『産業振興の種』に「スポットを当てながら更なる事業者間交流、事業者と市民、消費者との交流促進の支援」を行うと述べており、今後八尾市が重点的に取り組むテーマの一つとして、新たな八尾特産品、既存特産品のブランド化を掲げている。

八尾市には、豊富な地場産業の集積や固有の農林水産品が存在していることから、その特長を活用して地域の活性化につなげることは重要な課題である。また、これまでに知られていない新たな地域資源を発掘し、具体的な活用方策を講じることも求められている。

以上を踏まえ、19年度産業振興会議では新たに地域資源検討部会を設置し、地域活性化に向けた地域資源活用方策の検討を行うことが付託された。当部会では、八尾市における地域資源の探索と、活用に向けた課題の整理を行ってきたところであり、その検討結果をここに報告するものである。なお、検討結果は大阪府立産業開発研究所に委託してとりまとめた。

ついでには、産業振興会議ではこの報告を基にご議論いただき、平成19年度八尾市産業振興会議報告書を取りまとめていただくよう期待するものである。

平成20年3月

八尾市産業振興会議地域資源検討部会

目 次

1. 地域資源の現状と問題の所在

1-1. 地域資源とは

1-2. 地域資源活用に向けた国・大阪府の取り組み

1-3. 八尾市における地域資源の現状と課題

2. 地域資源の探索

2-1. 他地域事例からみる地域資源活用の類型

2-2. 無形の地域資源としての工業集積

2-3. 八尾における地域資源への転化可能性

3. 課題と今後の方向性

3-1. 隠れた地域資源の探索

3-2. 市民・市内企業に対する認知度の向上と参加促進

3-3. 活用手法・方策の具体化検討

資料1 概要「中小企業地域資源活用プログラム」（経済産業省制度）別紙

資料2 部会で検討する「地域資源」のイメージ・・・・・・・・・・別紙

資料3 地域資源活用による活性化の参考例（1）

資料4 地域資源活用による活性化の参考例（2）

資料5 地域資源活用による活性化の参考例（3）

平成19年度「八尾市産業振興会議 地域資源検討部会」委員名簿

平成19年度「八尾市産業振興会議 地域資源検討部会」審議経過

1. 地域資源の現状と問題の所在

1-1. 地域資源とは

地域資源という用語は、法律の制定に伴い地域活性化の取組みにおけるキーワードとして急速に認知されてきている。ここではまず、地域資源が示すものについて定義しておく。

平成19年6月に施行された「中小企業による地域産業資源を活用した事業活動の促進に関する法律」（中小企業地域資源活用促進法）では、(1) 地域の特産物として相当程度認識されている農林水産物または鉱工業品（農林水産物・鉱工業品）、(2) 特産物となる鉱工業品の生産にかかわる技術（産地技術）、(3) 地域の観光資源として相当程度認識されているもの（観光資源）、という三種類を地域資源（法文上は地域産業資源）と定義している。これらつまり、「地域の中小企業らが有効に活用する素材であり、皆が知っているもの」であるとしている¹。

当部会では、この法律の定義を踏まえながらも、地域活性化に資するという趣旨から、地域の「強み」「特色」と呼べるようなものを幅広く捉え、検討の対象とする。

1-2. 地域資源活用に向けた国・大阪府の取組み

(1) 中小企業地域資源活用プログラム（詳細は資料1を参照）

地域資源の活用を促進する取組みとして、中小企業庁の支援制度「中小企業地域資源活用プログラム」が19年度から開始されている。同プログラムにおいては、中小企業地域資源活用促進法に基づいて、国によって策定された基本方針に則り都道府県が域内の地域資源を指定した基本構想を作成し、認定を受ける。その基本構想に沿った事業計画を中小企業が作成し、その計画が認定されると、専門家によるアドバイス、補助金、減税措置、低金利融資などの支援を受けることができる、というのが支援の大まかな枠組みである。

同プログラムが目指すのは、地域に固有に存在する資源を活用して、中小企業が消費者ニーズに適合した製品開発を行うことと、大都市圏や海外に向けた販路開拓支援を行うことである。「事業化まで一貫したハンズオン支援を行う」ことで、新事業を5年間で1,000件創出することを目標に置いている。

中小企業庁と独立行政法人中小企業基盤整備機構は、中小企業地域資源活用プログラムのポータルサイト「地域資源活用チャンネル」を開設し、全国の事例や支援に関する情報提供を行っている。最近の動きとしては、市場調査支援の一環として、東京都港区にアンテナショップも開設されている。

このような、地域における産地の産品や技術を活用した中小企業の製品開発や市場開拓の支援は以前からも行われていた。その代表的なものは、「JAPANブランド育成支援事業」（平成16年度から実施）や「地域資源の全国展開プロジェクト（小規模事業者新事業全国展開支援事業）」（平成18年度から実施）である。中小企業地域資源活用プログラムは、これらの支援に加えて、より幅広く総合的に地域資源の活用を促そうとするものと捉えることができる。

(2) おおさか地域創造ファンド

大阪府においても、地域資源を活用した取組みへの支援の一環として、「おおさか地域創造ファンド」という合計200億円のファンドを組成し、産業振興・地域活性化に向けた事業に対して助成を行っている。これは、中小企業地域資源活用プログラムにおいて、「その他の支援措置」に位置づけられている地域中小企業応援ファンドを活用したものである。

平成19年度は、43件の事業が採択され、助成総額は約8,700万円にのぼる。うち1件が八尾市の企業

¹ 中小企業基盤整備機構「地域資源活用チャンネル」(<http://j-net21.smr.j.go.jp/expand/shigen/about/index.html>)。

による案件である²。

1-3. 八尾市における地域資源の現状と課題

次に八尾市における地域資源について概観する。上記の中小企業地域資源活用プログラムにおいて、大阪府が中小企業地域資源活用促進法に基づき作成した基本構想に含まれている八尾市関連の地域資源は表1のとおりである。

表1 大阪府の基本構想に含まれている八尾市の地域資源

鉦工業品	大阪唐木銘木仏壇、大阪塗仏壇、大阪仏壇、かばん、建築金物、玩具、紙器、敷物、児童乗物、事務用紙製品、せっけん・洗剤、段ボール箱、撚糸、歯ブラシ、袋物、婦人子供服、ブラシ、ボタン、本、魔法瓶、眼鏡
------	---

資料：大阪府商工労働部経営支援課のウェブサイト「地域産業資源活用事業等の促進に関する基本的な構想」(<http://www.pref.osaka.jp/keieishien/keikaku/indexchiiki.htm>) 掲載の参考資料より作成。

この中では、八尾市関連の地域資源として、歯ブラシなど全国的にもよく知られている地場産業産品・産地技術が多くあげられている。このほか、農林水産品として花卉や、「府内全域の地域資源」に区分されている「なにわの特産品」の中に、大阪枝豆や若ごぼうといった、八尾市内が代表的な産地になっている農産物などが含まれている³。

こうした地域資源は数多く存在するものの、これらを誰が、どのような手法を用いて活用して活性化につなげるか、という点が問題であり、検討されなければならない点である（資料2参照）。

さらに、本調査では八尾市の活性化に資する地域資源が、上記のほかにも存在するかどうかについての予備的な探索を行った。それにより、これらの地域資源の具体的な活用に向けて、活動主体や手法を含む具体的なビジネスモデルの検討に資する資料とするものである。

2. 地域資源の探索

当部会では、まず他地域の事例を数件取り上げ、地域資源をどのように活用しているかについて議論した。次に、八尾市内における地域活性化の取り組みを無形の地域資源として取り上げ、インタビュー調査を実施した。さらに、部会における議論から、今後地域資源として活用可能性のある事項について探索を行った。

2-1. 他地域事例からみる地域資源活用の類型（詳細は資料3を参照）

(1) 地場産業製品を基にした製品開発・マーケティング

まず、全国各地で多く行われている取組みとして、地場産業製品・技術を元にしなが、消費者ニーズを踏まえた製品開発と販路開拓への取組み事例について調査した。代表的な事例としては、頻繁に取り上げられる山形県の山形カロツェリアプロジェクトや、広島県の熊野筆の技術を応用した、メイクアップアーティスト向けの化粧筆の開発などがあげられる⁴。

いずれも、外部専門家を活用するなどして、伝統的な地場産業の製品を国内外での認知度と競争力

² 「地域資源である電気機器部品加工技術を活かした、次世代光通信デバイスの開発及び販路開拓」（株式会社ハネロン）が中河内地域において採択されている。詳細は<http://www.mydome.jp/aopf/pdf/nakakawachi-sentei.pdf>を参照。

³ 若ごぼうについては、平成19年12月になにわの特産品に追加されている。

⁴ 山形カロツェリアプロジェクトについては本部会では直接議論の対象にはならなかったものの、地域資源活用チャンネルの説明において産地技術型的事例としてとりあげられている

(<http://j-net21.smr.j.go.jp/expand/shigen/about/index.html>)。同プロジェクトの詳細については<http://www.yamagata-carrozeria.com/>などを参照。

の高い製品に転化させたことが特徴である。

(2) 地域ブランドと並行した取り組み

次に、従来から行われている地場産品の「地域ブランド」化に向けた取り組みがあげられる。多くの場合、域内企業の製品を認定し、共通のブランドで技術力の高さを内外にアピールするというものである。大阪府内における有名な事例としては、堺商工会議所による堺ブランド『堺技衆』がある。

地域に存在する製品・技術を発掘し、認知度を高めるという点では地域ブランドは地域資源活用と多くの共通点を有している。

(3) ものづくり集積を活かした観光開発

観光資源は地域資源の一つとして位置づけられているが、大阪府においては、その大きな特長である製造業の集積を産業観光という視点から重要な資源としてとらえることができる。

八尾市にとって応用可能性のある事例として、東大阪市のM-1プロジェクトがあげられる。これは、東大阪のものづくり集積を活用して、学校に対して教育旅行プランを提供するものである。

このように、他地域でも地域資源を活用した取り組みが、すでに多様な形で行われていることがわかる。

2-2. 無形の地域資源としての工業集積（詳細は資料4を参照）

第二に、実際に八尾で活動している無形の地域資源の事例として、マテック八尾に対するインタビュー調査を実施した。これは、八尾市主催の勉強会に端を発する工業集積ネットワークが主体となった地域活性化への取り組みである。

異業種交流組織が、市内の学校などでロボットの講座を開催することにより、八尾が「ものづくりのまち」であることを生徒にアピールできるとともに、こうした活動自体が内外に認知されることにより、技術力の高い企業がロボット関連事業に取り組んでいるという地域のイメージ向上にもつながる効果がある。こうした活動自体を地域資源として捉えることができる。

また、今後の展開に向けて、地域の事業者などとの連携や情報発信の強化が課題としてあげられており、他の地域資源との組み合わせや、効果的な情報発信を行うための体制作りが検討されることが望ましい。

2-3. 八尾における地域資源への転化可能性（詳細は資料5を参照）

さらに、現在はあまり知られていないものの、今後八尾市の地域資源として転化する可能性のある事象について部会で検討を行った。

(1) 食品類

若ごぼうなどの農林水産物に加え、河内名物とされる「かすうどん」が八尾の地域資源として考えられるという意見が聞かれた。藤井寺市、松原市、大阪市、堺市など大阪府内、また東京都内においてもかすうどんを提供する店舗がみられるが、八尾市内における店舗の状況や、経緯などについては今後の調査が必要である。

こうした料理のメニューを地域資源として、全国に認知を広めようとする動きが各地でもみられており、全国的なコンテストなども開催されている⁵。

⁵ B級ご当地グルメのコンテストとして、「B-1グランプリ」という催しが開催されている。

(<http://www.b-1gp.cande.biz/>)。また、食を利用した地域活性化の最近の事例は「特集：地域ブランドに向かうB級グルメ」『地域開発』2007年12月号に多く紹介されている。

(2) エンターテインメント

八尾市内にはジャズバー、ライブハウスの集積があり、「ジャズのまち」としての打ち出しが可能ではないか、という指摘もなされた。八尾市内には、ライブハウスが数件営業していることが確認されており、その立地の経緯や優位性などについて、今後明らかにする必要がある。

なお、音楽で地域活性化を図る試みとしては、宇都宮市（ジャズの街）、高槻市（年1回イベントを開催）などの例がすでにみられる。

(3) 鉄道関連施設

八尾市内には、JR、近鉄、地下鉄等複数の路線や車庫などが存在しており、鉄道ファンを集めることのできる資源であるため、市内の鉄道基盤が、地域資源として活用可能であるという考えもある。

地域特有の資源という意味では、鉄道関連施設は他地域でも集客に活用されている事例が多く、地域資源として有望である可能性もある。八尾市における特長や実際の集客状況などについて、今後明らかにしていくことが求められる。

3. 課題と今後の方向性

以上のような事例検討を行った結果、今後八尾市における地域資源活用に関して、以下のような課題と方向性が抽出された。

3-1. 隠れた地域資源の探索

現在までの議論を発展させて、知られていない地域資源を探索し、さらに広範に八尾市の魅力を掘り起こす必要がある。今年度の部会における探索は限られたものではあったとはいえ、その中だけでも八尾市の新たな魅力となり得る資源の候補がいくつか抽出された。

八尾市では、多くの地域資源がすでに認知されているが、固定観念にとらわれない発想で、普段目にするものがなく気づかないもの、あるいは浸透しすぎていて特殊なものだと思われないようなものから、新たに八尾市の特長を示すような地域資源の要素を見つける努力を継続することが重要である。

3-2. 市民・市内企業に対する認知度の向上と参加促進

地域でも知られていない地域資源を探索する過程で、認知されていない理由をあわせて調査し、明らかにする必要がある。

その上で、地域資源の浸透を図り、地域活性化に向けた取組み・事業創出に市民・市内企業自らが幅広く参画できる仕組みを模索することが望ましい。それにより、参加者が市内の地域資源に親しみを感じ、積極的に取り組むことのできる環境を醸成することができる。

3-3. 活用手法・方策の具体化検討

地域資源を活用した地域活性化を持続的な取組みとしていくために、具体的なビジネスモデルの確立に向けた手法、担い手について引き続き検討する必要がある。地域活性化に向けた取組みは、本来市民自身の手によって、自律的に運営されることが望ましい。補助金や各種支援措置の有無によって事業の継続が左右されるような体制ではなく、市民、企業、行政などの主体がそれぞれの役割を明確にして連携を深めつつ、長期的な視点から実行が可能な体制を構築することが求められる。

以上のような、いわば内発的な地域資源の活用は、国のプログラムで志向する他地域・世界へ向けた製品開発や販路開拓と必ずしも合致しないこともあり得る。しかし、それは八尾市の取組みが国などの支援と相容れないということではない。このような、地域資源探索を通じて支援対象となるような中小企業の新たな事業創出は大いに歓迎されるべきことである。ただし本部会では、地域資源につ

いて市民が興味を持ち、事業の運営に進んで参画できるようになるための方策に重点を置いた。

また、地域資源の活用については、全国各地で取組みが行われている。今後八尾市内の地域資源の探索と活用検討にあたっては、ともすれば同質的になる可能性もある地域資源について、いかに八尾市の特長を際立たせるか、という点についても充分考慮する必要がある。

【主要参考文献】

財団法人大阪産業振興機構・独立行政法人中小企業基盤整備機構近畿支部『地域資源現況調査事業報告書』2007年2月。

大阪地域創造ファンド事業（財団法人大阪産業振興機構のウェブサイト）

<http://www.mydome.jp/aopf/>

全国中小企業団体中央会『中小企業地域資源活用促進法活用の手引き』2007年12月 第一法規出版

田中浩喜「地域資源の活用で地域の活性化を」『産業能率』2007年12月号（第609号）社団法人大阪能率協会、pp. 4-7。

地域資源活用チャンネル(独立行政法人中小企業基盤整備機構のウェブサイト)

http://j-net21.smrj.go.jp/expand/shigen/keisan/keisan_03.html

資料3：地域資源活用による活性化の参考例（1）

<伝統的な産地技術を活用して新製品を共同開発した例>

「熊野筆」の伝統技術を応用した化粧筆の開発	
事業主体	(有) 竹田ブラシ製作所など (広島県安芸郡熊野町)
事業概要	毛筆の伝統的な製造技法を用い、肌触りがなめらかで色の濃淡など微妙な表現が可能な化粧筆をドイツのバイヤーなどと開発した。 外部専門家の視点から、売るための仕掛け、カタログ作りなどのアドバイスを受けて、国内外のトップメイクアップアーティストに使用されるなどの実績を上げている。
参考 URL	竹田ブラシ製作所 http://takeda-brush.com/ 地域資源活用チャンネル http://j-net21.smrj.go.jp/expand/shigen/keisan/keisan_03.html

<地域ブランドとしての地域資源発掘・活用を進める例>

堺ブランド推進事業	
事業主体	堺商工会議所
事業概要	優れた技術を持つ企業を堺ブランド「堺技衆」として認証し、国内に広く発信する。優れた産業の集積地である「堺」を知ってもらい、地域のイメージアップと経済発展、また地元民の地域愛の醸成を促し、全国紙への認証企業名入り掲載などによりPRを行う。
参考 URL	堺ブランド『堺技衆』（堺商工会議所） http://www.sakaicci.or.jp/waza/index.html 地域資源∞全国展開プロジェクト（小規模事業者新事業全国展開支援事業） http://www.chiikishigen.com/top.html JAPANブランド育成支援事業（中小企業庁） http://www.chusho.meti.go.jp/shogyo/chiiki/japan_brand/index.htm

<工業集積を観光資源として活用を図る例>

東大阪観光プロジェクト（東大阪M-1プロジェクト）	
事業主体	株式会社 石切ゆめ倶楽部
事業概要	東大阪の地域資源である「モノづくり」を活用し、学校の求める体験「学び」型教育旅行プランをエージェント（旅行会社）に提供する。「モノづくり」を肌で感じ実際に接するプログラムを通じて東大阪の魅力を全国に発信する。また、東大阪での宿泊等を通じて地域活性化への貢献が期待できる。
参考 URL	おおさか地域創造ファンド事業 http://www.mydome.jp/aopf/

資料4：地域資源活用による活性化の参考例（2）

「ロボットのまち八尾」を目指す取り組み	
事業主体	マテック八尾 ロボット分科会（代表：たくみ精密钣金製作所 鈴木氏）
事業概要	<p>会員構成 マテック八尾会員企業37社（公的機関を含む）のうち11社</p> <p>事業内容 「ロボット」をキーワードにした地域活性化への活動 <ul style="list-style-type: none"> ・市内中学校などでのロボットに関する講座の開催・キットの開発・提供 ・ロボット模型の製造小売企業に向けた部品製造・供給協力 スローガン「八尾市を挙げて将来の御茶ノ水博士を育てよう」</p> <p>動機・経緯 マテック八尾は公的資金に関する研究会の参加者により2001年に結成された異業種交流グループ。定期的な会合や工場見学を通じて参加者同士の親交を深めてきた。その中で話をきっかけに2004年に分科会を設置。</p> <p>地域資源との関係</p> <p>(1)奈良高専 <ul style="list-style-type: none"> ・子供向けの講座開催の提案を受け、国の委託事業を活用するなどして講座で用いるキットを開発 ・高専の学生・卒業生との人材面でのつながりを構築 </p> <p>(2)企業 <ul style="list-style-type: none"> ・参加企業によりギアや基盤などの部品を製作。コストダウンや改良にも取り組む ・外注製作にも八尾市内の企業を活用：「Made in Yao」へのこだわり ・部品購入を通じて大阪市内のロボット模型製造小売業とつながりができ販路を確保 </p> <p>(3)市内中学校 <ul style="list-style-type: none"> ・講座から発展して中学生向けの工場見学を実現 </p> <p>(4)行政 <ul style="list-style-type: none"> ・八尾市産業振興課・中小企業サポートセンターの協力 </p> <p>今後の方向性・可能性 <地域資源を活用した取り組みとしての側面> <ul style="list-style-type: none"> ・地域商業とのマッチング 「地域の商業者と協力しながら、商店街に会話や動作が可能なロボットを設置するなど、八尾にこだわった取り組みをめざしたい」 →そのための資金・技術・組織面などでの体制作りが必要。他の地域資源との組み合わせを模索。 ・他地域に向けた情報発信 →ロボットを通じた地域活性化を行っている他地域の取り組みの研究や比較により隙間を見出すことが必要か →高専とのつながりを活用するなどして、他地域との連携・交流の可能性はないか →取り組みをどのように外部へ向けて発信するか </p>

	<p><活動そのものを地域資源として捉える側面></p> <ul style="list-style-type: none">・産業観光資源としての位置付け <p>→工場見学の経験を生かした産業観光への発展可能性</p>
参考 URL	http://matecyao.com/

資料5：地域資源活用による活性化の参考例（3）

河内名物 かすうどん	
概要	かすうどん（油かす＜牛の小腸を油で揚げたもの＞入りのうどん）は八尾の名産品として考えられるのではないかと。
現状・他地域事例	<ul style="list-style-type: none"> ・油かすは古くから南河内の郷土料理として親しまれてきた。 ・油かすを用いたダシとトッピングを用いたかすうどんは、1995年にグローバル・キッチン（本社：松原市）が開発したもの（同社のウェブサイトによる）。 ・かすうどんを提供する店舗は、大阪市、堺市、松原市、藤井寺市などにみられる。八尾市内でも数店舗存在するとされている。 ・いわゆる「B級グルメ」を活性化への起爆剤にする取り組みとして、他地域では高知県須崎市（鍋焼きラーメン）、兵庫県佐用町（ホルモン焼きうどん・シカコロッケ）などがある。
参考 URL	グローバル・キッチン（かすうどん「加寿屋」運営） www.aburakasu.com 須崎商工会議所（鍋焼きラーメン） http://www.cciweb.or.jp/susaki/nabeyaki/index.htm 佐用町商工会（ホルモン焼きうどん・しかコロッケ） http://www.hm.h555.net/~sayou/index.html
鉄道のまち・八尾	
概要	八尾市内には、JR、近鉄、地下鉄等複数の路線や、車庫などがあり、鉄道ファンを集めることのできる資源となっているのではないかと。
現状・他地域事例	<ul style="list-style-type: none"> ・近鉄高安車庫・検修センター、西信貴ケーブルなど特有の資源が存在。 ・鉄道車両・同部分品製造業は近隣の大阪市・東大阪市に多く立地。 ・「鉄道のまち」を標榜している例は、埼玉県大宮市（鉄道博物館が所在）、新潟市秋葉区、京都府福知山市など多数存在する。多くは、操車場、特徴ある駅舎、博物館などを象徴として中心に据えている。
参考 URL	新潟市秋葉区 http://www.city.niigata.jp/info/akiha/about/rail/siryou/ 福知山鉄道館（商店街が運営） http://www6.ocn.ne.jp/~popplnd/
ジャズのまち・八尾	
概要	八尾市内にはジャズバー、ライブハウスの集積があり、「ジャズのまち」としての打ち出しが可能ではないかと。
現状・他地域事例	<ul style="list-style-type: none"> ・八尾市内にあるライブハウスには、シルキーホール、フォルテシモなどがある。 ・JAZZ関連イベントを地域活性化に活用している例としては、栃木県宇都宮市（渡辺貞夫氏の出身地）、高槻市の高槻ジャズストリート（年1回のイベント）などがある。
参考 URL	シルキーホール http://www.silkyhall.co.jp/ フォルテシモ http://music.geocities.jp/ff_yuzo/ff-hp.htm うつのみやジャズのまち http://www.u-jazznomachi.com/top.html 高槻ジャズストリート http://www.0726.info/

平成19年度 「八尾市産業振興会議 地域資源検討部会」 委員名簿

	氏 名	職 業 等
部会長	太田 一樹	大阪経済大学 経営学部 教授
	伊勢 博幸	株式会社オオバ まちづくり部 部長代理
	温川 政佳	株式会社関西クラウン工業社 代表取締役
	梶田 安彦	不易糊工業株式会社 専務取締役
	柏本 景司	柏本商店
	鈴木 昌宏	やおコミュニティ放送株式会社 統括マネージャー
	吉本 憲司	株式会社八尾タイムズ 代表取締役

平成19年度「八尾市産業振興会議 地域資源検討部会」審議経過

第1回検討部会

日 時：平成19年11月20日（火） 19:00～21:00

場 所：八尾市役所3階 302会議室

議 事：（1）委員紹介

（2）検討部会の趣旨、今後の活動について

①検討の趣旨、活動イメージについて

②部会活動スケジュール

③検討すべき「地域資源」のイメージ

（3）地域資源活用事例報告

：他自治体の地域資源活用参考事例

第2回検討部会

日 時：平成19年12月18日（火） 19:00～21:00

場 所：八尾市役所6階 604会議室

議 事：（1）地域資源活用事例報告

：八尾市内の地域資源活用参考事例

「マテック八尾 ロボット分科会の取組み」

（2）八尾市における地域資源の現状について

：具体的な活用事例や活用主体の掘り起こし

第3回検討部会

日 時：平成20年2月12日（火） 19:00～21:00

場 所：八尾市役所6階 602会議室

議 事：（1）地域資源活用事例報告

：八尾市内における地域資源参考事例

（2）平成19年度検討部会中間報告骨子について

（3）平成20年度の方向性について